

## 財務 VOL.8

## 生命保険を見直して節約をしましょう:後編

先月号にて、必要保障額の具体的な計算方法として、万ーの場合に最低限必要である「借入金の返済」「生活費」「教育費」の見積り方をご説明いたしました。

しかし、更に考慮する必要があるものとして、最後に“物価上昇率”を加味しなくてははいけませんよ、ということをお伝えしておりましたので、この物価上昇率を以下簡単にご説明させていただきます。

### 【1%でも40年経てば5割増!!】

物価上昇率とは、その名のとおり世の中で流通しているモノやサービスの値段がどの程度上昇したのかを表す比率です。そうしますと、モノを買う生活費やサービスを受ける教育費は、この影響を受け必要な金額が変動することになります。

例えば、毎年物価が1%ほど上昇するとします。そうしますと、40年後には、なんと5割近くも物価高となるのです。

仮に、現状で生活費が年間500万円必要であるとすると、40年後には750万円が必要となり、250万円も多く準備しなくてはなりません。そして、この差額が40年間積み重なると4600万円も準備すべき金額に差が生まれるのです。そうしますと、上昇率を加味しないことには将来のリスクを見積ったとは言えませんので、物価上昇率は保障額の計算において非常に重要な要素と言えます。

### 【物価は上がるものだと考える】

しかし、昨今の経済状況は非常に芳しくない状態であり、さらに昔ほどモノの値段は上がらなくなりました。むしろここ数年は若干のデフレ状態であり、このままの状態もしくは物価が横ばいであれば考慮する必要がないのかもしれませんが。

しかし、バブル崩壊後の「失われた10年」においてさえ、平均すると0.8%ほど物価は上昇していた事実を考慮しますと、将来の見積りとしてはリスクを織り込むという意味でも下落よりも多少の上昇を想定しておくのが妥当でしょう。となると、最大限のリスクを見積る為には、やはりこの上昇率を加味する必要があります。

以上より、前号までで見積った保障額にこの上昇率を加味した金額が、最終的に保障すべき金額になるのです。

### 【保障額は年々減少するもの】

それでは最後に、どのように保険料を削減するのかを下記条件をもとにご説明いたします。

- ・奥様36歳、お子様3歳
- ・生活費月40万円、パート収入月10万円
- ・お子様の将来の進路はすべて私立の医学部
- ・物価上昇率 年1%
- ・借入残債3000万円、年300万円返済

この条件での必要保障額が下表となります。

(単位:万円)

奥様年齢	36歳	37歳	38歳	...	85歳
生活費	480	480	480	...	480
教育費	60	50	50	...	0
パート収入	△120	△120	△120	...	0
生活・教育費不足額	420	410	410	...	480
物価上昇率考慮金額	420	414	418	...	781
借入金返済	300	300	300	...	0
単年度必要保障額	720	714	718	...	781
累積必要保障額	35,849	35,129	34,415	...	781

上表の最下段が保険で保障すべき金額となります。このように表でご覧いただくと、保障額が年々減っていることがお分かりいただけると思います。そして、この年々保障額が減っているところに保険料を節約する余地があるのです。

どうということかと言いますと、保険に加入する場合、多くの先生方は年々保障額が減っていくにもかかわらず、保障額としては最も多額である1年目の金額に合わせて保険金額を設定しています。そうしますと、加入当初は必要最低限の保障を得られるのですが、2年目以降は1年目と同額では保障が過分になってしまいます。

そして、この過分な保障に対する保険料、ここが節約できる部分なのです。

もし、先生が保険料の支払を負担に思っておられ、さらに資金繰りが苦しい状態なのでしたら、その保険を見直しされることをお勧めいたします。そして、収入保障保険のような時の経過と共に保障額が減っていく保険へ変更されますと、保険料を節約できるようになるはずですよ。

ただし、既存の保険が貯蓄型の場合は、むやみに解約をしないようにして下さい。なぜなら、貯蓄型の場合、ある程度の年数を経ないと支払った保険料総額よりも大幅に少ない返戻金となる場合が多く、総額と返戻金との差額がこれから節約できる金額よりも多額となる事がありえるからなのです。

以上、今号まで3回にわたり保険料の見直しについてご説明いたしました。

これにより、無駄のない保険へ加入するポイントについて多少のご理解をいただけたかと思しますので、そのポイントをしっかり押さえたうえで、既存保険の見直し、新規の契約にお役立て下さい。

そして、保険料を節約することで、個人の資金繰りを改善し、よりお金を残せる体質作りをされてはいかがでしょうか。

### ■ おしらせ

「保険が“最低限必要な保障”になっているのかチェックして欲しい」等のご要望がございましたら、倶楽部会員専用メールアドレスにてお問合せ下さい。また、「具体的な相談に乗って欲しい」というご要望がございましたら、「無料経営相談」をお申込み下さい。詳しくは、<http://now.amcp.biz> をご覧下さい!